



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦

2020年11月28日

NEWSLETTER 第662号

www.wfmjapan.org

発行所 世界連邦運動協会 〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303
電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443 E-mail info@wfmjapan.org  wfmjapan

購読 郵便振替 00190-6-29964
1部100円(年6回 奇数月28日1回発行)
購読料は会費・寄付金に含めて収納

国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式



大阪万博記念公園会場で講演する高瀬聖子氏

9月21日は「国際平和デー」として1981年の国連総会で採択されている。この日に各界の垣根を超えて、全国各地で鐘等をならし、世界の平和と連帯を祈念する式典が開催された。主催団体は「国際平和デー日本委員会」であるが、実質的には世界連邦推進日本協議会を構成する国内の世界連邦関係6団体を中心となって運営する形となった。委員長を世界連邦日本国会委員会諮問機関・グローバルガバナンス推進委員会代表の長谷川祐弘氏、副委員長を宍野史生氏（世界連邦文化教育推進協議会理事長）、戸松善晴氏（日本宗教連盟理事長）、中嶋聞多氏（地域活性学会会長・信州大学教授）、田中朋清氏（世界連邦日本宗教委員会事務局長）が務めた。外務省と平和首長会議が後援。

<平和の鐘について>

この式典の開催にあたっては、国連の「平和の鐘」の話から語る必要がある。国連の「平和の鐘」はビルマ戦線で戦争を体験し、戦後愛媛県の宇和島市長になった中川千代治氏が、軍刀と世界各地のコインを溶かして一つにし、世界が平和になってほしいという想いを込めて1954年に国連に寄付したものである。中川氏が所属していた連隊は全滅し、自分一人生き残った申し訳なさに苦しんだ末、平和の大

切さを後世に伝えることを自らの使命とした。1954年と言えば日本が国連に加盟する1956年よりも前のことである。中川氏の平和への強い想いが届いたということであろう。鐘には「世界絶対平和万歳」と刻まれ、毎年国連総会の開催時には国連事務総長が平和の鐘を鳴らしている。また、国連見学者に最初に案内されるのがこの平和の鐘であるという。中川氏は国連へ平和の鐘を贈呈した後も鐘の姉妹品を铸造し続け、それらは288個にも及んだ。

<国連平和の鐘を守る会・宗教界・平和首長会議など各地各界との連携>

本年は日本の各地でも一斉に鐘などを鳴らし、平和を祈る趣旨でこのような式が

企画された。大本山増上寺（東京）、万博記念公園（大阪）、平和の鐘（広島）、石清水八幡宮（京都）、浦上天主堂（長崎）、きぼうの鐘（宮城）、立正佼成会大聖堂（東京）、比叡山延暦寺（滋賀）、人類愛善会（東京・京都）など日本の各地で一斉に鐘などを鳴らし、平和を祈った。そしてこれらの各地をネットで結び、鐘打の様子を中継した。

大阪万博記念公園では、上述の中川千代治元市長のご令嬢・高瀬聖子さんが「国連平和の鐘を守る会」を組織して鐘を鳴らしていると知り、全く知らない相手に飛び込みのようなつもりで高瀬さんに連絡をとった。ところが高瀬さんが既に世界連邦のことをご存じだったので驚いた。実は、木戸寛孝常務理事が既に国連平和の鐘の意義を知り、世界連邦21世紀フォーラムの桂さんを通じて数年前から連携をとっていた。桂さんは「国連平和の鐘を守る会」の理事に就任するなど高瀬さんの信頼を得ていたのだ。お陰様で今回平和の鐘のいわば「本家本元」と連携することができ



鐘打される三笠宮彬子女王

たのは嬉しいことだった。

「平和首長会議」(1982 年広島市長が国連軍縮会議で呼びかけて発足、世界の 165 国 7968 都市、国内 1733 都市が加盟)は、広島で鐘を鳴らしていた。こちらにも連絡をとり、今回連携することとなった。広島会場では、世界連邦運動協会の城忠彰広島支部長や森下峯子副支部長がこのイベントに携わった。

<東京会場>

小生(谷本)や世界連邦ユースフォーラム支部の会員・学生は、国会委員会の塩浜事務局長とともに、特に大本山増上寺における会場を担当した。開会前に友吉鶴心氏が薩摩琵琶を演奏し、小生が司会として開会を宣言した。

三笠宮彬子(あきこ)女王殿下が最初に鐘を打ち、小池百合子東京都知事、千玄室日本国連協会会長、東久邇吉子世界連邦文化教育推進協議会会長、長谷川祐弘元国連事務総長特別代表など各界からの参列者が続けて鐘を打った。ボランティアの学生たちも鐘を打ったことは良い経験になったと思う。

長谷川祐弘氏は実行委員会を代表して「新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、今こそ世界が連帯すべき時であります」と趣旨説明を行なった。

続いて千玄室国連協会会長が「この鐘をつくのは世界の平和、人類の平和を祈るための一打であり、この鐘が大きく広がっていきますことを心からお願い申し上げます」

す」と述べた。

東久邇吉子世界連邦文化教育推進協議会会長は「世界連邦の活動は、私たち一人一人が皆、国際社会の一員であることを自覚し、行動することから始まります。私たち世界連邦文化教育推進協議会は、文化と教育が『平和の道しるべ』となることを再認識し、広く伝えていくことを目的としています」と挨拶した。

女優の吉田美佳子さんは、司会のアシスタントを務め、国際連合事務総長特別顧問ファブリツィオ・ホスチャイルド事務次長のメッセージを代読した。

最後に小池百合子東京都知事が「本日、三笠宮彬子・女王殿下ご臨席のもと、『国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式』が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます」、「世界に目を向けると残念ながら現在もお地域紛争やテロが世界各地で起こっております。そのような中、新型コロナウイルスという新たな脅威にも直面しています。今こそ私たちは、互いに手を

携えてこの人類共通の敵に立ち向かうべきではないでしょうか」と述べた。

時間の関係で十分皆様の挨拶をお聞きすることはできなかったが、ほかにも外務大臣の代理として山田重夫外務省総合外交政策局長、徳大寺實啓氏(徳大寺文庫会長)、菊田吉夫氏(元宮内庁式部官長)、堤公長氏(宮内庁拳典)など、各界から著名人・重鎮が参列した。

ここをもっとこうすれば良かったという反省点はいろいろ浮かぶものの、8 月末のスタートで日数がない中、成功裏に終わったと言えよう。さまざまな宗教が宗派を超えて協力し、さらに平和首長会議や自治体、外務省などの省庁、平和の鐘を守る会をはじめとする民間団体など、さまざまなアクターが平和のために連携するさまは正に世界連邦の理念と合致していた。来年以降も今年の経験を活かし、続けていきたいと思う。

(谷本 真邦)



小池百合子東京都知事



千玄室日本国連協会会長



東久邇吉子世界連邦文化教育推進協議会会長

赤松賞 贈呈式



受賞者田中順子氏と日下部理事長

2020 年度第 2 回理事会が 10 月 16 日に参議院議員会館で開催され、その冒頭で

赤松賞贈呈式が行われた。本来であれば定例総会での授与式となるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により総会が書面開催となり、理事会での贈呈式となった。

野田事務局長より赤松賞について紹介、赤松常子氏が女性の地位向上、労働者の地位向上などに尽力された経歴を説明し、受賞者・田中順子(たなか じゅんこ)氏(世界連邦運動協会三鷹支部 支部長)の業績と経歴が紹介された。

田中氏は、平成 7 年 5 月から平成 27 年

4 月まで、5 期 20 年にわたり三鷹市議会議員として、三鷹市に多大なる貢献をされてきた。そのうち、平成 21 年から平成 23 年には、三鷹市初の女性市議会議員としても活躍された。平成 27 年には、こうした功労が讃えられ、旭日双光章を受賞されている。

世界連邦運動協会三鷹支部には、議員当選後に入会され、議員の職を辞されたのち現在に至るまで約 25 年という長きにわたり三鷹支部の会員として携わっていた。特に、平成 24 年度からは副

支部長、平成 28 年度からは支部長として、三鷹支部の活動において重要な役割を果たしている。

このほか、三鷹市の地域や市民の皆様とも積極的に交流されており、現在は、三鷹市下連雀六丁目八丁目地区連絡会の理事長も務められるなど、地域の顔として活動されている。平成 25 年には、三鷹市や東京都に対する署名活動をはじめとした働きかけを行い、東京都で初めて、住民と行政の協力のもと、防災設備を整えた防災広場をオープンさせるなど、在宅避難時の防災や地域での絆づくりをはじめとする地域防災にも積極的に活動されている。令和元年 9 月には、救急行政の推進に同連絡会が多年にわたり積極的に協力し、その充実発展に貢献したとして、三鷹消防署長から感謝状を授与されている。加えて、NPO 法人「伝統文化と和みの広場」の立ち上げに尽力されるとともに、留学生や地域の学生と一緒に地域交流の場を創出す

るなど、地域社会に幅広く貢献されている。

以上の経歴紹介に続いて、日下部理事長から赤松常子顕彰会の表彰盾と副賞 10 万円が授与された。

これを受けて田中氏は、受賞の喜びを述べるとともに、1960 年に三鷹支部が設立されて以来、三鷹市の非核・平和事業と連携した世界連邦運動の推進や啓発を様々な活動を通して実践されてきたことなどをご紹介くださった。

◇三鷹支部の主な取り組み

『平和カレンダー』の制作：毎年三鷹市内の小学生より募集した「平和の絵」と市民からの「平和へのメッセージ」の中から、『平和カレンダー』に掲載する絵とメッセージを選定し、世界連邦運動協会三鷹支部長賞等を選出。『平和カレンダー』表彰式において、賞状と記念品を贈呈している。

啓発グッズの配布：三鷹市民の方々から提供していただいた千羽鶴をリサイクルしたメモ帳を作成し、平和関連事業の参加

者へ配布している。

献花：8 月 15 日に開催される「戦没者追悼式並びに平和祈念式典」への協力と献花の提供をしている。

(川口 美貴)



平和カレンダー



平和の絵展

核兵器禁止条約の発効確定を受けて声明を発表

2020 年 10 月 24 日(ニューヨーク時間)、ホンジュラスによる批准書の寄託により、核兵器禁止条約の発効要件である 50 カ国の批准国に達し、これにより同条約は、国際法として 90 日後の 2021 年 1 月 22 日で効力を生ずることになります。

核兵器禁止条約の発効は、核兵器は違法であるという「人類の意思」を明確にし、核兵器の全面的な廃絶に向けて大きな前進をもたらすものです。これまで核兵器による戦争被害を体験した被爆者、多くの国の政府、国連、国際赤十字、その他の国際的・地域的な NPO 団体や組織などにより多大な努力が払われてきました。この事実は歴史に深く刻まれ、これからの歩みに堅固な礎を提供するものです。

世界連邦運動協会は、10 月 25 日に下記の声明を発表しました。今後も、世界の国々や人々との連帯を広げ、核兵器廃絶の実現にむけて尽力いたします。

(川口 美貴)

声明

核兵器禁止条約発効確定にあたって

さる 10 月 24 日、核兵器禁止条約批准国が発効要件の 50 カ国に達し、90 日後に発効することが確実となった。

核抑止力への信奉、ならびに「国家の安全保障のためには他国の無辜の民を犠牲にしてもやむをえない」という思想が核廃絶の妨げとなっている。この思想から抜け出せないまま、核兵器の拡散を防止するだけでは核のない世界は実現しない。核兵器保有国が核をなくす努力をしなければ、非保有国の核開発を止める主張は説得力を持たないのである。核拡散防止条約(NPT)の第 6 条においても「全面的かつ完全な軍縮に関する条約交渉を行うことを約束する」との誓約を確保している。この誓約の理念に実効性を持たせるために、核兵器禁止条約は、非保有国による開発・保有を禁止するのみならず、保有国が保有する核を解体していく義務にも触れた

画期的なものとなっている。

私たちは 1948 年 8 月 6 日、広島被爆 3 周年を機に発足して以来、国内外の関係諸団体と協力し、一貫して核兵器の廃絶を訴えてきた。物理学者アインシュタイン博士は、日本初のノーベル賞受賞者となる湯川秀樹博士と会い、「私の理論のためにあなたの国に原爆が落とされて申し訳なかった。」と言って涙を流し、その後ともに世界連邦実現のために力を注いだ。創生期において核物理学の最先端の学者たちも活動の中心にいたことが当団体の特色である。世界規模・地球規模の安全保障体制を創設し、核なき世界を実現することが私たちの目標である。

日本政府は毎年、国連に核兵器廃絶決議を提出し、圧倒的多数の国の賛成を得ているが、その日本政府が「核保有国と非保有国の橋渡しをする」ことを理由に、いまだ核兵器禁止条約に反対の立場をとり続けていることは遺憾である。私たち「核兵器禁止条約」への署名・批准を求めるも

のであるが、政府が主張するように「核保有国と非保有国の橋渡しをする」という立場をとるにしても、唯一の被爆国として核兵器廃絶に向かう道筋を提示する積極的な外交を展開することが望ましい。そこで日本ができる一例を示したい。

まず、「核兵器禁止条約」にただちに賛成できない事情があったとしても、「このような条件が整えば賛成できる」とのコメントを加える。さらに、核兵器禁止条約締約国会議にオブザーバーとして参加し、核軍縮・核廃絶に向けて積極的に行動する。そのようにしてこそ、核保有国・非保有国双

方からの理解と信頼が得られるのではなかろうか。

被爆者たちは自らが生存するうちに核兵器のない世界が実現することを望んでいる。その希望を実現することこそが唯一の被爆国・日本の責務である。

註

(1)1948 年に発足当時の団体名は「世界連邦建設同盟」(初代会長 尾崎行雄)であったが、現在の「世界連邦運動協会」と同一の団体である。

(2)1955 年、世界連邦建設同盟の総会で「8 月 6 日(ヒロシマ原爆の日)」を世界連邦

デーと定め、啓蒙宣伝の一大世界運動を展開する」ことが決議された。その総会で第二代会長に推挙された東久邇稔彦殿下は「戦争をしないということを国の憲法としたことは、人類史上の一大事件であって、日本国民の誇りであるばかりか、それは全人類の悲願であるのだから、この精神を世界化し、世界の憲法にすべきでそのことを世界各国に勧めることは最初に原爆を受けた日本人の特権であり、しなければならない責務だと思います」と述べられた(小塩完次著『世界連邦建設同盟創立 25 周年 世界連邦運動われらの歩み』9 頁)。

京都府綾部市で世界連邦都市宣言70周年記念の事業を実施

国内の自治体で初めて世界連邦都市宣言を行なった京都府綾部市では、宣言日の 10 月 14 日を「平和と環境の日」と定め、世界平和と地球環境保護への誓いの日としている。例年この時期には、綾部支部や市・市議会、青年会議所などの関係団体で構成する「地球市民の集い実行委員会(委員長:山崎善也綾部市長)」が、「地球市民の集い」を実施。本年は 11 月 8 日に数学者で大道芸人でもあるピーター・フランク氏(67 歳)を招いてイベントを開催した。

開会に当たり、山崎市長は、空襲や核の脅威にさらされなかった綾部市が戦後もなく宣言を行うに至った経緯や、アメリカの大統領選挙にも触れ、「一つの国では解決できない課題に今こそ世界が一つになり手を携えなければならない。綾部は小さな都市だが決して何もできない訳ではない。絶対にあきらめてはいけない。」と語った。

講演会では、ハンガリー生まれで両祖

父母がホロコーストの犠牲となった経歴を持つフランク氏が「私はいったい、ナニジンなんだろう?」と題して講演。大道芸を交えてユダヤ人差別の自らの体験も披露しながら「平和とは心の状態のことであり、人を受け入れる寛容さが大切。Keep Your Heart Open!」などと熱心に語りかけた。



地球市民の集いでのフランク氏

集いでは、市内小・中学生の世界連邦ポスター・作文コンクール入賞者の表彰を行うとともに、宣言 70 周年を記念して市が制作した世界連邦啓発映像を公開した。

また、1952(昭和 27)年に市民の浄財で

建立した「平和塔」のライトアップ事業も展開。10 月 14 日から同月末まで、市郊外の丘陵地に建つ白い塔を秋の闇夜にくっきりと浮かび上がらせた。

(鎌部 秀樹)



平和塔ライトアップ(点灯の様子)

自治体協が核兵器禁止条約発効確定に伴う声明を発表

2017 年 7 月に国連で 122 か国の賛成のもと採択された核兵器禁止条約が、この度、50 か国・地域の批准を得て、来年 1 月 22 日に発効することが決まった。

1955(昭和 30)年に世界連邦平和都市連絡協議会として発足して以来、世界の

恒久平和の実現を訴えてきた世界連邦宣言自治体全国協議会(会長:山崎善也綾部市長)は、本条約の発効を核兵器廃絶に向けた歴史的な一歩との認識に立ち、唯一の戦争被爆国である日本が、「核兵器のない世界」の実現をめざし積極的かつ先導

的な役割を果たすよう、当協議会の声明を発表するとともに、日本政府に対し要請文を提出した。

(鎌部 秀樹)

核兵器禁止条約の発効確定に伴う声明

この度、2017年7月7日に国連で採択された核兵器禁止条約の批准国・地域が「50」に達したことに伴い、来年1月22日の条約発効が確定となった。

戦後、核兵器による破滅から人類を救うための決め手として、アインシュタインや湯川秀樹など科学者らが中心となり提唱された「世界連邦」の建設を目指す、国内の自治体で組織する当協議会は、その前身である世界連邦平和都市連絡協議会の創設から65年にわたり、核兵器の廃絶を強く訴え、地道ながらも世界の恒久平和の実現に向けた活動を進めてきたところで

ある。

核兵器禁止条約は、核兵器の開発や実験、生産、保有、使用などを全面的に禁止し、核兵器を非人道的で違法とする初めての国際条約である。本年は、人類が核兵器の脅威を知り未曾有の犠牲を払うこととなった第二次世界大戦の終結から75年の節目にも当たり、当協議会としても、今般の条約発効を歴史的な一歩と捉えており、今後、核兵器廃絶に向けた動きが大きく前進することを期待している。

国会では、2005年には衆議院で、2016年には参議院で、それぞれ世界連邦に関する決議がなされ、また、政府は、1994年以降毎年、国連において核兵器廃絶に

向けた決議案を提出し圧倒的多数の賛成を得ているところである。

そうした中で、核兵器禁止条約の採択・発効に繋がった世界的な機運を無駄にせぬよう、唯一の戦争被爆国である日本国が、核兵器保有国と非保有国の橋渡し役を担うとともに、「核兵器のない世界」の実現に向け、より積極的かつ先導的な関与を果たすよう希望するところである。

令和2年(2020)年11月4日

世界連邦宣言自治体全国協議会

会長 綾部市長 山崎 善也

追悼 教育広報委員長 税所凉子氏 逝去



世界連邦運動協会教育広報委員長・京都大阪府支部長の税所凉子さんが2020年10月3日に亡くなられました。

税所さんは教育広報委員長として、また、京都・大阪府支部の代表として、特に

小中学生への啓発活動で大きく貢献なさいました。大阪では、延べ50校以上の小学校に対し、総合学習の時間などを利用して「出前平和授業」を行なってられました。未来を担う子どもたちに平和の大切さを伝えることは極めて意義深い活動です。また、小中学生ポスター作文コンクールにおいては長年にわたり審査委員長を務めてくださいました。「どりむ社」の代表取締役社長(後に会長)として、小学生への作文指導や教育教材の出版・企画・編集などを手がけられ、そのご経験が小中学生への啓発活動に活かされたのでしょう。

また、世界連邦日本大会に関しても大きく貢献してくださいました。今世紀に入ってから2006年、13年、17年と3度にわたっ

て大阪で日本大会を開催していただきました。本部事務局も「税所さんたちの地元でやるなら大丈夫」と大船に乗ったような気持ちでいたものです。実際、大阪での日本大会は少ない時でも600人、3回中2回は1000人集まりました。首都東京で開催した時でさえ、200～300人集めるのにどれだけ苦労したかを考えれば、税所さんたちの力と努力に頭が下がるばかりです。運動はまずは知ってもらうことから始まるわけですから、多くの人を集め、私たちの運動を多くの人に知っていただいたことは運動への大きな貢献でした。

思いがけない急な訃報に接し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(塩浜 修)

世界連邦日本国会委員会と賀川豊彦 世界連邦運動協会執行理事・賀川豊彦記念松沢資料館副館長 杉浦 秀典

戦後、世界連邦建設同盟で副総裁を務め、協同組合の父と言われる賀川豊彦は、終戦の日から4日後の1945(昭和20)年8月19日(日)に、日本基督教団松沢教会の礼拝中において、「世界連邦制度の創造」と題した説教を語りました。また、憲政の父と呼ばれる尾崎行雄は、同年12月11日、「世界連邦建設に関する決議案」を国会へ

提出しました。尾崎行雄と賀川豊彦は、終戦後いち早く、平和のための世界制度を訴えていたのです。

1948(昭和23)年7月、英国国会議員ミントンから、一通の手紙が賀川豊彦に届けられました。その内容は世界連邦議員グループを組織するよう要請する内容でした。これに触発され、賀川は自身が運営す



昭和20年9月 国際平和協会を設立
東久邇もこれに参加

る「財国際平和協会」(1945(昭和20)年9月、内閣総理大臣 東久邇宮稔彦からの出資により首相官邸で設立。賀川は当時内閣参与であった)の任務として、世界連邦のための国会委員会をつくることを決意します。そして、1949(昭和24)年3月、同協会の総会で「国会に世界政府運動を促進せしめること」との決議に至りました。

当時、英議員グループの推進力となっていた立役者は、労働党議員ヘンリー・アスポーンでした。彼は、彼の唱えた「平和への一つの提案—A Plan for Peace」を急速に世界の運動にまで盛りあげようと意図し、意欲的な活動を行っていました。この提案は、世界中から100万人に一人の割合で人民代表をえらび、世界憲法起草のための世界人民会議を1950年までに開こうというもので、英国の議員グループは委員会を結成し、この達成のため奔走していました。

各国の国会内に世界連邦グループをとという提案は、1948(昭和23)年9月、ルクセンブルグで開かれた第2回世界連邦世界大会で採択された「ルクセンブルグ宣言」と呼ばれる宣言書の中に、『国会委員会』を結成する。この目的のために他の国際団体の援助を求める……』として盛り込まれることとなりました。

賀川は早速、当時衆議院議長で労働組合「友愛会」の第2代会長を務めた、旧知の松岡駒吉へ働きかけました。やがて第1回の発起人会が、1949(昭和24)年11月26日、松岡駒吉、三木武夫(後の総理大臣)、船田享二、岡田勢一、西郷吉之助、中山マサ、小杉イ子の出席をえて開催されました。続いて第二回発起人会は、同年一二月七日に開催され、先の議員に加えて、田中耕太郎、尾崎行輝、竹下豊次、小野光洋、西山亀七、前田力、木内キャウ、福田昌子らに加わりました。さらに第3回発起人会は、同年12月15日に開催され、桜内辰郎、森戸辰男、高田寛、西田天香、下条康麿らが加わりました。

こうして、同年12月20日「世界連邦日本国会委員会」が創設されました。北村徳太郎が座長となって宣言を採択し、役員を選考したところ、会長には衆議院議長松岡駒吉が推され、副会長に田中耕太郎、北村徳太郎、監事に笹森順造、桜内辰郎がえられました。そして最後に賀川豊彦が来賓として祝辞を述べました。賀川は1946(昭和21)年3月に、貴族院議員(政府の推薦にもとづき天皇陛下が任命する終身議員、昭和22年に廃止)に勅選されていましたが、この時点ですでに国会議員ではありませんでした。しかし、国会委員会

推進の功績が評され、顧問に推されました。この時入会した議員は、104名となり関心の高さが伺えます。

翌年1950(昭和25)年3月13日に改めて役員会が催され、賀川豊彦のほかに、新たに以下の5氏が顧問に加わりました。

世界連邦建設同盟総裁	尾崎 行雄
衆議院議長	幣原 喜重郎
参議院議長	佐藤 尚武
内閣総理大臣	吉田 茂
最高裁判所長官	田中 耕太郎

賀川豊彦は、日本における世界連邦運動推進者の一人として活躍しましたが、実は、1922(大正11)年12月13日、来日したアインシュタイン博士を、稲垣守克氏(後に世界連邦建設同盟理事長)らと共に神戸で迎えていました。賀川の小説『死線を越えて』が100万部売れて、版元の改造社に利益が出たため招いたのです。そして須磨海岸で会食と懇談をしたのですが、戦後の世界連邦運動の道は、もしかしてこの時から、静かな胎動を始めていたのかもしれない。

参考
『世界連邦運動二十年史』
世界連邦建設同盟 1969(昭和44)年
『アインシュタインショックII』
河出書房新社 1981(昭和56)年

会員の声 1945年生まれから見た“戦争と平和”(その2)

金沢支部 平口 哲夫

第二次世界大戦の終戦当時、私の父は金沢工業専門学校(金沢大学工学部の前身)の数学教授をしていた。敦賀市で生まれた私は、2歳の頃まで金沢市の松ヶ枝町(現・高岡町)で父母、兄、姉と一緒に借家住まいをしていたのだが、その家を大家が売りに出したため、3歳のときに工業専門学校の敷地内にあった1戸建ての武道場に仮住まいし、そこで弟が生まれた。その武道場では、なんと3世帯同居だったことからして、いかに住居難であったかが分かる。しかも、弟が生まれた昭和23年(1948)6月28日に福井地震が起き、福井県丸岡町(現・坂井市)にあった、父の実家は倒壊し

てしまったのだ。

翌年、工業専門学校に隣接する土地に建っている、平屋の長屋のような宿泊施設に引っ越した。その建物には職員6世帯が入居しており、1世帯につき2部屋しかなく、台所とトイレは共有だった。入居者は、満州などからの引揚者や戦災に遭って引っ越してきた人たちなどである。この辺り一帯は、現在の小立野(こだつの)1・2丁目に相当するが、当時は上野本町と称されていた。この地は、明治10年(1877)に陸軍金沢第7連隊の演習場として使用され、明治22年(1889)4月1日の町村制施行により崎浦村となり、明治31年(1898)

第9師団設立後、その練兵場に陸軍上野練兵場が造られた。昭和11年(1936)に崎浦村は金沢市に編入され、戦後、上野射撃場は農地として、旧軍人による開拓団に払い下げられた。この射撃場跡には、練兵用の小山が三つ並行して築造されており、北西方向から順に一番山、二番山、三番山と呼ばれていて、私ども一家が住んでいた宿泊施設の表側には農地が広がっており、その先に二番山が見え、裏手(南東側)には三番山が近接していた。射撃場跡地からは銃弾の薬きょうが落ちていることがあり、兄は友だちと一緒に拾い集めたりした。

昭和26年(1951)、金沢大学金沢高等師



範学校附属高校（金沢大学教育学部附属高等学校の前身）と金沢市立野田中学校の敷地内にあった官舎（当時の住所名は野田町、後に平和町に編入）に引っ越した。この官舎は、2戸が線対称的に接続している平屋で、それぞれ玄関、台所、トイレ、茶の間3畳、押入れ・床の間付き6畳、押入れ付き6畳、押入れ付き5畳半、納屋などがあって、簡素な建て方とはいえ、前住居よりはずっとマシだった。附属高校と野田中学校の校舎として利用された建物は、元陸軍騎兵隊の兵舎を改造したものであり、野田中学校の校舎は官舎の目と鼻の先にあった。添付の写真は、昭和24年（1949）に新設された野田中学校の全景であり、『向日葵 創立50周年記念誌』（金沢市立野田中学校1999、私が同窓会の会長をしているときに刊行）から転載した。同中学校は、昭和25年（1950）、警察予備隊の創設に関連して金沢高等師範学校に校舎の大半を譲渡し、紫錦台、兼六、小将町、高岡町の4中学校に分教場を設置した。写真の左側の校舎が野田中学校用として維持、中央と右側の校舎は金沢高等師範学校に譲渡されたもの。昭和27年（1952）に十一屋町の一部（後に若草町に編入）に野田中学校の新校舎が建築されるに伴い、野田町の校舎は分校となった。わずか4年の間に目まぐるしい変遷があったのは、学制の変更に加えて、大陸からの引揚者などにより、生徒数が急増したことが影響している。私は、中学1年生のとき、この分校に通い、2階の教室の窓からは自宅が丸見えであった。兄は野田中学校から附属高校に、弟は附属中学校（現・金沢市立21世紀美術館の敷地内にあった）から附属高校に進学した。

附属高校の面する大通りを挟んで陸上自衛隊金沢駐屯地がある。私どもが金沢大学の官舎に引っ越した当時は、自衛隊の前身である警察予備隊の時期だったので、

「予備隊」と通称されていた。「予備隊」が「保安隊」を経て「自衛隊」に改称されるのは、昭和29年（1954）、私が金沢市立十一屋小学校3年生のときのことである。その頃、自宅近くに予備隊/自衛隊のボイラー施設があり、付近で遊んでいると、隊員が乾パンをくれることがあった。また冬季、野田山の斜面（現・大乘寺丘陵公園）でスキーをしていると、隊員が隊列を組んでスキーをしにくるのと出会ったりした。小学校5年生のときに通った十一屋小学校泉野分校（現・泉野小学校）では、私が国語の時間に書いた「自衛隊さんご苦労さん」という詩を、4年生のときのクラス担任だったI先生（男性）が、なぜか廊下の黒板に白墨で書き写していた。その詩は道路工事や災害援助に活躍してくれる自衛隊員に感謝した内容のもので、隊員がザックザックと足音を立てながら行進する様子を描いていた。それで思い出したのは、4年生の国語の時間に、どういうわけか、兵士の一団がザックザックと行進する様子を描いた詩を、I先生が朗読したことである。それは2.26事件の反乱兵の行軍の様子だったように思う。ストーブの傍らでその詩を読んでいたから、その事件のあった日のことなのかもしれない。I先生が軍隊生活を体験なさった世代であることは確かであるが、なぜそのような詩の朗読を4年生にしたのかが今もって分からない。なお、十一屋町から平和町を経て野田町に至る大通りのうち、平和町から野田町までは、まだ舗装されていなかったのが、自衛隊によって舗装工事が施され、その完成記念式典が十一屋町に隣接する寺町1丁目の映画館で行われた。5、6年生のときのクラス担任だったH先生（女性）から、自衛隊に感謝する作文を書き、式典で朗読するように言われたのは、I先生から推薦があったからだろう。以上のように、子どもの頃、身近な存在であった自衛隊員に、私は親近感を持っ

ていたのである。

十一屋小学校に入学した昭和27年（1952）、サンフランシスコ対日講和条約・日米安全保障条約が発効した。日本が正式に独立を回復したことを伝えるラジオニュースを聞いて、「日本はまだ独立しとらんかったん？」と思わず質問したときの、父親の困惑したような顔が思い出される。5歳年上の姉が父の代わりに説明してくれた。「昔から独立しとらんかったんやないよ。戦争に負けてアメリカに占領されとったのが終わったんや」と。最初の「保護者参観日」に1年生は日の丸の旗を描かされた。「濃いがにぬりまっし、濃いがにぬりまっし」と、クラス担任のS先生（女性）が助言して回っていたことも、母と私との思い出話によく登場した。2年生のときの運動会では、日の丸の旗振りダンスをさせられた。私にとって日の丸は日本国独立の象徴みたいなものであるから、日の丸自体に悪感情を抱いていたわけではないが、「男がダンスなんてダラクサイ（あほらしい）」とばかりに二、三人の仲間と一緒にいい加減に旗を振っていたところ、さっそく先生に注意されてしまった。おかげでその学期の体育の成績は5段階評価の2であった。私の通信簿に2の成績が付けられたのは、これが最初で最後である。このダンスの歌詞は今でも覚えている。「日の丸振って遊びましょ / あの子もこの子もランランラン / まんまるまんまる真っ赤な日の丸 / 朝日をあびて日の丸だ」。

当時、日の丸をめぐる揉め事が起きたという記憶はないが、のちに教育現場で国旗問題が生ずるたびに、私は小学校1・2年のときのささやかな体験を思い出す。日の丸が悪いわけではない。立場をわきまえぬ政治家の不用意な発言、その背後にある「懲りない面々」の考え方が問題だ。「君が代」は平安時代の和歌に由来し、家人の長寿を祝う歌だった。だから、この歌の「君」は、もとは天皇に限定されていたわけではない。5、6年生のとき、H先生から「君が代の君はあなたであり、国民一人ひとりを意味するのですよ」と習った憶えもある。H先生による説明は、「君が代」の由来に基づくものであったかどうかはともかく、日本国憲法にふさわしい解釈であったと今

にして思う。小渕恵三政権は、国旗・国歌の法制化に当って、「君が代」の君は「日本国の象徴であり日本国民統合の象徴である天皇を意味する」という見解を発表している。しかし私は、「天皇によって象徴された日本国民一人ひとり」はもちろんのこと、広く世界の人々をさすものと理解したい。天皇陛下も国民とともに、また世界の人々とともに口ずさむことのできるような

歌であってこそ、日本の国歌にふさわしいのではないだろうか。「日の丸」掲揚・「君が代」斉唱の推進派も反対派も、これを踏み絵にするようなことはせず、もっとおおらかに対応してほしい。「日の丸・君が代」に対する拒否反応は、日本が現憲法の基本的精神にそって歩みつけ、国際的に名誉ある評価を得るならば、いずれおさまるであろう。出身中学校の同窓会の会長とし

て、あるいは所属町内会の会長として学校の入学式・卒業式に来賓参加した際、堂々と「君が代」を歌いはするが、賛成しかねる主張に屈したとか、組みしたとか思われたくないで、そのように行動した理由を機会あるごとに表明することになっている。

(つづく)

本部と支部の主な動き

11 月

18 日・19 日 国連創設 75 周年記念事業

主催 世界連邦日本国会委員会・日本国際連合協会・京都芸術大学

18 日 平和フォーラム 参議院議員会館特別会議室

19 日 芸術文化学術フォーラム 京都芸術大学 京都芸術劇場

12 月 9 日 三鷹支部 「平和カレンダー」表彰式

12 月 11 日 世界連邦運動協会 第 1 回執行理事会
午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
衆議院第二議員会館第一会議室

2021 年

1 月 25 日～ 青梅支部 平和の写真展「人・水・命～中村

2 月 2 日 哲医師 36 年の歩み～」開催

1 月 30 日 青梅支部 平和の集い（平和ポスター入賞者の表彰式、講演会）

※今号に掲載されたイベントの写真は、撮影時のみ、または周囲に人がいない時にのみマスクを外した際のものです。

編集後記

☆二人の女性の言葉を紹介したい。米大統領選での勝利演説の中でカマラ・ハリス氏は「私が最初の女性の副大統領になるかもしれませんが、最後ではありません。すべての若い女の子たち、わかったはずですよ。この国は可能性に満ちた国であると」と述べた。友人の女医が医療関連のメールマガジンへの寄稿で『『未来を描く』のために、男性優位な政治や世界観に対し、あえて否定力をかけていかなければならない。いまだに昭和を引きずっている世代から、若い世代へ、世間の価値観をどう変えて、社会をどう繋いでいけるかが課題だ』と語っている。これまでの価値観や常識が通じなくなった激動の世の中において、武力や権威ではなく、知性と愛で未来を切り開いていく頼もしい人々がたくさんいる。勇気をもらった。(川口) ☆新型コロナのワクチン完成が待たれる。ただ、ワクチンが開発されても途上国等に十分に行き渡るかが心配だ。国際連帯税による財源確保、究極的には世界連邦による適切な運用・分配が必要だ。(塩浜) ☆米国大統領に、トランプ氏ではなく、良識あるバイデン氏が選ばれたことに安堵しました。たとえば、地球規模の問題は世界連邦政府のもとで解決するという世界連邦運動の立場から見た場合、地球温暖化対策として脱炭素社会をめざすパリ協定にトランプ政権のもとで米国が脱退したのは由々しき事態ですが、再加入の意向を表明しているバイデン氏が大統領に選出されたことは大いに歓迎すべき朗報です。(平口)

編集委員会 / 委員長：川口美貴 副委員長：塩浜修・平口哲夫 委員：野田武志・谷本真邦

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org